

ニュース和歌山 2020年6月27日号の
「おしえて！マイドクター Q&A」に掲載。

Q

最近、81歳になる母の物忘れが進んできているように心配です。



《回答者》

◆脳神経外科

貴志川リハビリ
テーション病院
亀井 一郎 院長

A

認知症は「最もかかりたくない疾患」の一つですが、高齢化と比例し、増え続けています。

我が国においては、認知症およびその予備軍を合わせると人口の1割を占め、65歳以上では4人に1人がそれらに相当するといわれています。

認知症の主な症状は、「覚えられない」「時間や場所がわからない」「物事を最後までやり遂げられない」などです。体験したこと自体を忘れたり、判断力が低下することもあり、日常生活に支障をきたします。周囲との間にあつれきを生むことも多く、不安、妄想、暴言、徘徊などがみられるようになります。

アルツハイマー病がよく知られていますが、ほかに、レビー小体型認知症、脳血管性認知症、前頭側頭型認知症などがあり、それぞれ症状も対処法も異なります。一方、手術で治るタイプもあり、慢性硬膜下血腫や正常圧水頭症などが原因の認知症が該当します。ただし、CTやMRI等を用いた的確な診断が重要です。

「おかしいな」「心配だな」と思ったら、ためらわずに脳神経外科、脳神経内科、精神科といった専門外来を受診してください。丁寧な診察と正確な診断を受ければ、良い治療につなげられます。一度の人生、楽しく明るく過ごしましょう。